

## 審査意見への対応を記載した書類（8月）

### （目次）薬学部 薬学科

1. 学位の英語名称を「Wakayama-Pharm.D.」としているが、地域名称を付すことや、臨床実務を前提とした職能学位である「Pharm.D.」を学位名称とすることは国際通用性に疑義があるため、学位の英語名称について適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  
2. 本学科では「130 単位を超える単位数を 4 年次までに取得する必要があるため、履修科目の年間上限登録（CAP 制）は設けない。」とのことであるが、学生がより深い理解を得るための十分な学修時間を確保することに資するよう、履修科目の年間登録上限を設けることが望ましい。（改善事項）・ 2
  
3. 授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）
  - （1）学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも定められていないことから、適切に改めること。・・・・・・ 3
  - （2）シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不適切と思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。・・ 5
    - ・「事前学習Ⅱ」は評価方法が不明確。
    - ・「病院・薬局実習」は評価方法の割合が記載されていない。
    - ・「特別実習Ⅰ」は総研究時間が評価対象となっている。
    - ・「英語ⅠA」は中間試験を実施するにも関わらず、評価方法に含めていない。
    - ・「英語ⅠA」は一部ルーブリック評価であるが、学生の自己・相互評価となっている。
  - （3）シラバスの評価時期・評価方法・評価基準の記載項目が科目ごとに異なっており、整合性を欠くことから、記載項目を統一すること。・・・・・・ 32

(是正事項) 薬学部 薬学科

1. 学位の英語名称を「Wakayama-Pharm.D.」としているが、地域名称を付すことや、臨床実務を前提とした職能学位である「Pharm.D.」を学位名称とすることは国際通用性に疑義があるため、学位の英語名称について適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、国際通用性の観点から検討した結果、学位の英語名称を「Bachelor of Pharmacy」に改める。

(新旧対照表) 基本計画書 (1 ページ)

旧	新
学位または称号	学位または称号
学士 (薬学)	学士 (薬学)
[Wakayama-Pharm.D.]	[Bachelor of Pharmacy]

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (6 ページ)

旧	新
英語名称については以下のとおりとする。 学部名 薬学部 School of Pharmaceutical Sciences 学科名 薬学科 Division of Pharmacy 学 位 学士 (薬学) Wakayama-Pharm.D.	英語名称については以下のとおりとする。 学部名 薬学部 School of Pharmaceutical Sciences 学科名 薬学科 Division of Pharmacy 学 位 学士 (薬学) <u>Bachelor of Pharmacy</u>

(改善事項) 薬学部 薬学科

2. 本学科では「130 単位を超える単位数を 4 年次までに取得する必要があるため、履修科目の年間上限登録 (CAP 制) は設けない。」とのことであるが、学生がより深い理解を得るための十分な学修時間を確保することに資するよう、履修科目の年間登録上限を設けることが望ましい。

(対応)

審査意見を踏まえ、人文社会系科目、専門科目の選択科目を履修するにあたり自学自習時間の確保を考慮し、年間 44 単位の年間登録上限 (CAP 制) を設けることとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (19 ページ)

旧	新
<p>3 卒業要件 (中略) また、授業科目の 3 割は大学独自の授業科目により構成され、残りの 7 割は薬学教育モデル・コアカリキュラムの一般目標を全て網羅するカリキュラムとなっている。大半が必修科目であり、5 年次と 6 年次は、実務実習と特別実習が主となることから、130 単位を超える単位数を 4 年次までに取得する必要があるため、履修科目の年間登録上限 (CAP 制) は設けない。 (以下略)</p>	<p>4 卒業要件 (中略) また、授業科目の 3 割は大学独自の授業科目により構成され、残りの 7 割は薬学教育モデル・コアカリキュラムの一般目標を全て網羅するカリキュラムとなっている。<u>大半が必修科目となるが、人文社会系科目、専門科目の選択科目を履修するにあたり、自学自習時間の確保を考慮し、年間 44 単位の年間登録上限 (CAP 制) を設ける。</u> (以下略)</p>

(是正事項) 薬学部 薬学科

3. 授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも定められていないことから、適切に改めること。

(対応)

学修成果の評価方法について、カリキュラム・ポリシーに定めていなかったことから、カリキュラム・ポリシーに評価方法・評価基準を定めてシラバスに明記する旨を記載した。また、設置の趣旨の「⑥教育方法、履修指導方法及び卒業要件」に「2 学修成果の評価方法」の項目を新たに設け、評価方法・評価基準を定めてシラバスに明記する旨に加えてすべての授業の始講日に学生にシラバスを配布し、授業内容、成績評価法・評価基準等を説明する旨を記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (7 ページ)

旧	新
<p data-bbox="284 1115 740 1256">和歌山県立医科大学薬学部は以下の教育を通じて社会に貢献できる医療人を育成する。</p> <p data-bbox="284 1267 379 1547">(1) 略 (2) 略 (3) 略 (4) 略 (5) 略 (6) 略</p>	<p data-bbox="852 1126 1308 1261">和歌山県立医科大学薬学部は以下の教育を通じて社会に貢献できる医療人を育成する。</p> <p data-bbox="852 1272 948 1552">(1) 略 (2) 略 (3) 略 (4) 略 (5) 略 (6) 略</p> <p data-bbox="852 1608 1302 1933"><u>全ての開講科目について、それぞれの学習目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (18 ページ)

旧	新
【新規】	<p>2 学修成果の評価方法</p> <p>全ての開講科目について、それぞれの学習目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する（カリキュラム・ポリシー）。特に、知識だけではなく学部教育においてさらなる高度化を図るべき技能や思考力・判断力・表現力、協働して学ぶ態度の修得・醸成を行う演習科目や実習科目、さらにはヒューマニズム教育科目、長期課題研究等については、科目の学習目標や修得すべき資質・能力に合わせた適正な学修成果の評価を行う。</p> <p>さらに科目担当教員はすべての授業の始講日に学生にシラバスを配布し、授業内容、成績評価法・評価基準等を説明する。成績評価は、5段階成績評価【S（95点以上）、A（80点以上95点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満）】により行うこととする。</p>

(是正事項) 薬学部 薬学科

3. 授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不適切と思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。

- ・「事前学習Ⅱ」は評価方法が不明確。
- ・「病院・薬局実習」は評価方法の割合が記載されていない。
- ・「特別実習Ⅰ」は総研究時間が評価対象となっている。
- ・「英語ⅠA」は中間試験を実施するにも関わらず、評価方法に含めていない。
- ・「英語ⅠA」は一部ルーブリック評価であるが、学生の自己・相互評価となっている。

(対応)

シラバスに記載している評価方法について、指摘のあった科目も含め、全科目について確認を行ったところ、他の科目においても不適切と思われる科目が見つかった。審査意見を受けて、評価方法について、中間試験(●●%)、期末試験(●●%)等明確に記載し、総研究時間など評価の対象とならない項目については評価対象から除いた。シラバスに記載している評価方法を改めた科目及び改めた内容は以下の通りである。

科目名	評価方法(旧)	評価方法(新)
事前学習Ⅱ	各項目において実技による合否判定。 本科目は臨床実習に臨む医療人、社会人の姿勢を考慮した授業であることから、正当な理由なく欠席した場合は単位を認めない。	ルーブリック(80%) 最終試験(20%)
病院・薬局実習	【評価者1】薬局病院指導薬剤師による形成的評価は実習を通して継続的に行われる。 【評価者2】実習訪問担当教員によるルーブリックを用いた評価を行う。	ルーブリック(100%)

	<p>【ルーブリック】実務実習指導・管理システムに実装されるものを用いる。</p> <p>【出席】本実習は臨床（実務）における医療人，社会人の姿勢が問われる。正当な理由なく欠席・遅刻した場合は実習を中断することがある。正当な理由がある欠席・遅刻においても，指導薬剤師と協議し，その評価によっては補講を科す。</p>	
特別実習Ⅰ	指導教員による総研究時間の確認（50%）、指導教員による原著論文輪読セミナーの観察記録（25%）、指導教員による中間報告質疑応答の観察記録（25%）による合否判定	指導教員による原著論文輪読セミナーの観察記録（50%） 指導教員による中間報告質疑応答の観察記録（50%）
英語ⅠA	<p>期末試験 80%、ルーブリック（自己評価及び相互評価）20%</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格</p>	<p>中間試験（30%）</p> <p>期末試験（50%）</p> <p>ルーブリック（20%）</p>
英語ⅠB	<p>期末試験 100%</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格</p>	<p>中間試験（40%）</p> <p>期末試験（60%）</p>
情報基礎	<p>期末試験 論述試験 100%</p>	<p>期末試験（100%）</p>
基礎物理学	<p>期末試験 100%</p> <p>期末試験（多肢選択・正誤</p>	<p>期末試験（100%）</p>

	<p>判定・穴埋め・論述試験) 100点満点中60点以上で 単位取得。 授業への出席が2/3未満 の場合、期末試験受験資 格を与えない。</p>	
有機化学	期末試験(論述試験)100%	期末試験(100%)
有機化学演習	<p>授業中に行う個人演習 (客観試験)20% 授業中に行うチーム演習 (客観試験、論述試験) 30% 演習時の観察記録(教員 による観察およびピア評 価)20% 期末試験(客観試験、論述 試験)30%</p>	<p>授業中に行う個人演習 (20%) 授業中に行うチーム演習 (30%) 演習時の観察記録(20%) 期末試験(30%)</p>
生物学	<p>期末試験(論述試験)100 点。評価は期末までに授 業担当者が行う。 授業への出席が2/3未満 の場合、期末試験受験資 格を与えない。</p>	期末試験(100%)
ケア・マインド教育Ⅰ	<p>講演の聴講およびグルー プワークの姿勢に関する 教員の観察記録およびグ ループワークにおけるピ ア評価(60%)、レポート・ プロダクトの評価(30%)、 発表会でのプレゼンテー ション(10%)</p>	<p>講演の聴講およびグルー プワークの姿勢に関する 教員の観察記録およびグ ループワークにおけるピ ア評価(60%) レポート・プロダクトの 評価(30%) 発表会でのプレゼンテー ション(10%)</p>
英語ⅡA	<p>定期試験80%、ルーブリ ック(自己評価及び相互 評価)20% 授業への出席が2/3未満</p>	<p>中間試験(30%) 期末試験(50%) ルーブリック(20%)</p>



	の場合、単位を与えない。 総評価の 60%以上で合格	
英語 II B	学期の途中で提出する課題 50%(アウトライン(20%)、草稿(30%)) 学期末に提出する完成原稿 50% 授業への出席が 2/3 未満の場合、単位を与えない。 全ての課題を提出することが単位取得の必須条件である。 総評価の 60%以上で合格	学期の途中で提出する課題 (50% (アウトライン 20%、草稿 30%)) 学期末に提出する完成原稿 (50%)
情報基礎演習	個人レポート 100%	個人レポート (100%)
無機化学	期末試験(論述試験) 100%	期末試験 (100%)
ケア・マインド教育 II	期末までに授業担当者が行う。 プロダクトと発表 (80%)、同僚評価 (20%) 授業への出席が 3/4 未満の場合、単位を与えない。 単位修得基準 プロダクトと発表、同僚評価を合わせて 60%以上で単位修得とする。	プロダクトと発表 (80%) 同僚評価 (20%)
薬学英语 I	講義中に実施する小テスト 40%および期末試験 60%。 評価は期末までに授業担当者が行う。  単位修得基準 小テスト、期末試験を合わせた 100 点満点中 60 点以上で合格とする。	講義中に実施する小テスト (40%) 期末試験 (60%)
薬学英语 II	講義中に実施する小テスト	講義中に実施する小テスト

	<p>ト 40%および期末試験60%。 評価は期末までに授業担当者が行う。</p> <p>単位修得基準 小テスト、期末試験を合わせた100点満点中60点以上で合格とする。</p>	<p>ト (40%) 期末試験 (60%)</p>
薬学英語Ⅲ	<p>講義中に実施する小テスト 40%及び期末試験60%。 評価は期末までに授業担当者が行う。</p> <p>単位修得基準 小テスト、期末試験を合わせた100点満点中60点以上で合格とする。</p>	<p>講義中に実施する小テスト (40%) 期末試験 (60%)</p>
薬学入門Ⅰ	<p>プロダクト評価 (40%)、発表時の観察記録 (30%)、グループワークの観察記録 (30%、教員による評価とピア評価を含む) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。</p>	<p>プロダクト評価 (40%) 発表時の観察記録 (30%) グループワークの観察記録 (30%、教員による評価とピア評価を含む)</p>
薬学入門Ⅰ (早期体験学習Ⅰ)	<p>観察記録 (40%)、レポート (40%)、プロダクト (20%) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠</p>	<p>観察記録 (40%) レポート (40%) プロダクト (20%)</p>

	席した場合は、単位を認めない。	
薬学基礎実習Ⅰ	レポート (50%)、実験中の観察記録 (20%)、発表のプロジェクトおよび観察記録 (30%) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。	レポート (50%) 実験中の観察記録 (20%) 発表のプロジェクトおよび観察記録 (30%)
薬学入門Ⅱ	プロジェクト評価 (40%)、発表時の観察記録 (30%)、グループワークの観察記録 (30%、教員による評価とピア評価を含む) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。	プロジェクト評価 (40%) 発表時の観察記録 (30%) グループワークの観察記録 (30%、教員による評価とピア評価を含む)
薬学入門Ⅱ (早期体験学習Ⅱ)	観察記録 (40%)、レポート (40%)、プロジェクト (20%) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。	観察記録 (40%) レポート (40%) プロジェクト (20%)
物理化学Ⅰ	期末試験 100% 期末試験 (多肢選択・正誤判定・穴埋め・論述試験) 100点満点中 60点以上で単位取得。	期末試験 (100%)

	授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	
物理化学演習 I	評価は期末試験 (100%) で行う。 演習終了後に課題を出し、レポートとして提出してもらう。すべてのレポートの提出が単位獲得の必須条件となる。 授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	レポート (20%) 期末試験 (80%)
有機薬化学 I	期末試験 (論述試験) 100%	期末試験 (100%)
有機薬化学演習	授業中に行う個人演習 (客観試験) 20% 授業中に行うチーム演習 (客観試験、論述試験) 30% 演習時の観察記録 (教員による観察およびピア評価) 20% 期末試験 (客観試験、論述試験) 30%	授業中に行う個人演習 (20%) 授業中に行うチーム演習 (30%) 演習時の観察記録 (教員による観察およびピア評価) (20%) 期末試験 (30%)
機能形態学 I	1. 講義ごとに実施する小テスト (30%) 2. 講義内容全体を対象とする期末試験 (60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答) (10%) 基本知識の習得は 1, 2 のテストでおもに評価する。加えて、本科目が取り扱う範囲で、臓器構造に裏付けられた機能性を考えさせるレポートの提出	1. 講義ごとに実施する小テスト (30%) 2. 講義内容全体を対象とする期末試験 (60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答) (10%) 基本知識の習得は 1, 2 のテストでおもに評価する。加えて、本科目が取り扱う範囲で、臓器構造に裏付けられた機能性を考えさせるレポートの提出

	をもとめ、解剖学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。合計60点以上を合格と判定する。	をもとめ、解剖学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。
生理学Ⅰ	<p>1. 講義ごとに実施する小テスト(30%)</p> <p>2. 講義内容全体を対象とする定期テスト(60%)</p> <p>3. 課題に対するレポート(自由回答)(10%)</p> <p>基本知識の習得は1, 2のテストでおもに評価する。加えて、本科目が取り扱う範囲で、未知の生理現象を題材にしたレポートの提出をもとめ、生理学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。合計60点以上を合格と判定する。</p>	<p>1. 講義ごとに実施する小テスト(30%)</p> <p>2. 講義内容全体を対象とする期末試験(60%)</p> <p>3. 課題に対するレポート(自由回答)(10%)</p> <p>基本知識の習得は1, 2のテストでおもに評価する。加えて、本科目が取り扱う範囲で、未知の生理現象を題材にしたレポートの提出をもとめ、解剖学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。</p>
生命科学Ⅰ	<p>期末試験(客観試験・記述試験)100%</p> <p>授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準</p> <p>期末試験、100点満点中60点以上で単位修得とする。</p> <p>期末試験60点未満の学生に対し、再試験を行うことがある。但し、期末試験30点未満の場合、再試験</p>	期末試験(100%)

	受験資格を与えない。	
生命科学Ⅱ	<p>期末試験（客観試験・記述試験）100%</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準          期末試験、100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。          期末試験 60 点未満の学生に対し、再試験を行うことがある。但し、期末試験 30 点未満の場合，再試験受験資格を与えない。</p>	期末試験（100%）
社会薬学Ⅰ	<p>期末までに授業担当者が行う。</p> <p>中間試験（50%）と期末試験（50%）</p> <p>授業への出席が 3/4 未満の場合，単位を与えない。</p> <p>単位修得基準          中間試験と期末試験合わせて 60%以上で単位修得とする。</p>	<p>中間試験（50%）</p> <p>期末試験（50%）</p>
薬学基礎実習Ⅱ	<p>レポート（50%）、実験中の観察記録（20%）、発表のプロジェクトおよび観察記録（30%）</p> <p>本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認</p>	<p>レポート（50%）</p> <p>実験中の観察記録（20%）</p> <p>発表のプロジェクトおよび観察記録（30%）</p>

	めない。	
物理化学Ⅱ	期末試験 論述 100%	期末試験 (100%)
物理化学演習Ⅱ	授業中に行う個人演習 80% 演習時の観察記録(教員 によるピア評価) 20%	授業中に行う個人演習 (80%) 演習時の観察記録(教員 によるピア評価) (20%)
放射化学	定期試験 論述 100%	期末試験 (100%)
有機薬化学Ⅱ	期末試験 100%	期末試験 (100%)
天然物化学・生薬学Ⅰ	期末試験(論述試験) 100%	期末試験 (100%)
機能形態学Ⅱ	1. 講義ごとに実施する 小テスト(30%) 2. 講義内容全体を対象 とする期末試験(60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答)(10%) 基本知識の習得は1, 2 のテストでおもに評価す る。加えて、本科目が取り 扱う範囲で、臓器構造に 裏付けられた機能性を考 えさせるレポートの提出 をもとめ、解剖学の疑問、 矛盾、課題を自分で調査 し、考察する能力を養う。 合計60点以上を合格と 判定する。	1. 講義ごとに実施する 小テスト(30%) 2. 講義内容全体を対象 とする期末試験(60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答)(10%) 基本知識の習得は1, 2 のテストでおもに評価す る。加えて、本科目が取り 扱う範囲で、臓器構造に 裏付けられた機能性を考 えさせるレポートの提出 をもとめ、解剖学の疑問、 矛盾、課題を自分で調査 し、考察する能力を養う。
生理学Ⅱ	1. 講義ごとに実施する 小テスト(30%) 2. 講義内容全体を対象 とする期末試験(60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答)(10%) 基本知識の習得は1, 2 のテストでおもに評価す る。加えて、本科目が取り 扱う範囲で、未知の生理	1. 講義ごとに実施する 小テスト(30%) 2. 講義内容全体を対象 とする期末試験(60%) 3. 課題に対するレポート (自由回答)(10%) 基本知識の習得は1, 2 のテストでおもに評価す る。加えて、本科目が取り 扱う範囲で、未知の生理

	現象を題材にしたレポートの提出をもとめ、生理学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。合計60点以上を合格と判定する。	現象を題材にしたレポートの提出をもとめ、解剖学の疑問、矛盾、課題を自分で調査し、考察する能力を養う。
生命科学Ⅲ	<p>期末試験（客観試験・記述試験）100%</p> <p>授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準          期末試験、100点満点中60点以上で単位修得とする。          期末試験60点未満の学生に対し、再試験を行うことがある。但し、期末試験30点未満の場合、再試験受験資格を与えない。</p>	期末試験（100%）
生命科学演習	<p>期末試験（客観試験・記述試験）55%</p> <p>授業中に行うチーム演習（客観試験、記述試験）45%</p> <p>授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準          期末試験、授業中に行うチーム演習の合計100点満点中60点以上で単位修得とする。          上記試験60点未満の学生</p>	<p>期末試験（55%）</p> <p>授業中に行うチーム演習（45%）</p>



	に対し、再試験を行うことがある。但し、期末試験の30%未満の場合、再試験受験資格を与えない。	
分子生物学	期末試験（論述試験）100点。評価は期末までに授業担当者が行う。 授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（100%）
地域医療薬学Ⅰ	授業への参加態度50%、課題レポート30%、グループ発表20%により評価する。 授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。 ミニレポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。 授業への出席が2/3未満である場合は、単位を与えない。 総評価の60%以上で合格とする。	授業への参加態度（50%）レポート（30%）グループ発表（20%） 授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。 レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。
地域医療薬学Ⅱ	授業への参加態度50%、課題レポート30%、グループ発表20%により評価する。 授業への参加態度は、討	授業への参加態度（50%）レポート（30%）グループ発表（20%） 授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見

	<p>議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>ミニレポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満である場合は、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格とする。</p>	<p>の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。</p>
社会薬学Ⅱ	<p>期末までに授業担当者が行う。</p> <p>小テスト (20%)、中間プレゼンのプロダクト・発表 (40%)、まとめプレゼンのプロダクト、発表 (40%)</p> <p>授業への出席が 3/4 未満の場合、単位を与えない。</p> <p>単位修得基準 小テストと発表ともに 60%以上で単位修得とする。</p>	<p>小テスト (20%) 中間プレゼンのプロダクト・発表 (40%) まとめプレゼンのプロダクト、発表 (40%)</p>
社会薬学演習Ⅰ	<p>期末までに授業担当者が行う。</p> <p>プロダクトと発表 (80%)、同僚評価 (20%)</p> <p>授業への出席が 3/4 未満の場合、単位を与えない。</p>	<p>プロダクトと発表 (80%) 同僚評価 (20%)</p>

	<p>単位修得基準            プロダクトと発表，同僚            評価ともに 60%以上で単            位修得とする。</p>	
<p>専門実習（物理・化学            系）</p>	<p>レポート（50%）、実験中の            観察記録（20%）、発表のプ            ロダクトおよび観察記録            （30%）            本科目は参加型の学習で            あり、出席を前提とした            教育方略・評価を行う。従            って、正当な理由なく欠            席した場合は、単位を認            めない。</p>	<p>レポート（50%）            実験中の観察記録（20%）            発表のプロダクトおよび            観察記録（30%）</p>
<p>機器分析化学</p>	<p>授業中に行う個人演習            30%            授業中に行う個人演習            20%            演習時の観察記録（教員            によるピア評価）20%            期末試験（論述）30%</p>	<p>授業中に行う個人演習            （50%）            演習時の観察記録（教員            によるピア評価）（20%）            期末試験（30%）</p>
<p>医薬品化学Ⅰ</p>	<p>期末試験 100%</p>	<p>期末試験（100%）</p>
<p>有機薬化学Ⅲ</p>	<p>期末試験 100%</p>	<p>期末試験（100%）</p>
<p>天然物化学・生薬学Ⅱ</p>	<p>期末試験（論述試験）100%</p>	<p>期末試験（100%）</p>
<p>毒性学</p>	<p>中間試験と期末試験にて            評価。            授業への欠席が、4回以上            で、定期試験受験資格を            与えない。            中間試験と期末試験の合            計が 60%以上で単位修得            とする。</p>	<p>中間試験（40%）            期末試験（60%）</p>
<p>感染防御学Ⅰ</p>	<p>期末試験（論述試験）100            点。評価は期末までに授            業担当者が行う。</p>	<p>期末試験（100%）</p>

	授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	
感染防御学 II	期末試験（論述試験）100点。評価は期末までに授業担当者が行う。 授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（100%）
免疫学 I	期末試験（70%）と授業中に提出するレポート（30%）により評価する。 授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（70%） 授業中に提出するレポート（30%）
病態生理学 I	期末試験（70%）と授業中に提出するレポート（30%）により評価する。 授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（70%） 授業中に提出するレポート（30%）
薬理学 I	授業中に実施する小テスト 30%および期末試験 70%。総評価の 60%以上で合格。	授業中に実施する小テスト（30%） 期末試験（70%）
薬理学演習 I	レポート 20% プレゼンテーション時に行う個人・チーム演習得点（客観試験）20% 演習時の観察記録（教員による観察評価）20% 期末試験 40% 総評価の 60%以上で合格 2 件のレポートを提出しない場合は単位を認めない	レポート（20%） 個人・チーム演習得点（20%） 演習時の観察記録（教員による観察評価）（20%） 期末試験（40%）

薬物治療学Ⅰ	一連の講義終了後に、期末試験を行い、60%以上の正解で合格とする。	期末試験（100%）
専門実習（生物系）	レポート（50%）、実験中の観察記録（20%）、発表のプロダクトおよび観察記録（30%） 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。	レポート（50%） 実験中の観察記録（20%） 発表のプロダクトおよび観察記録（30%）
医薬品化学Ⅱ	本科目で習得する能力は、医薬品の挙動について構造式を使って原子レベルで語ることを可能にします。これは、化学に精通する薬剤師が発揮できる大きな強みになります。	期末試験（100%）
衛生化学Ⅰ	中間試験と期末試験にて評価。 授業への欠席が、4回以上で、定期試験受験資格を与えない。 中間試験と期末試験の合計が60%以上で単位修得とする。	中間試験（40%） 期末試験（60%）
感染防御学Ⅲ	期末試験（論述試験）100点。評価は期末までに授業担当者が行う。 授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（100%）
免疫学Ⅱ	期末試験（70%）と授業中	期末試験（70%）

	に提出するレポート（30%）により評価する。授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	授業中に提出するレポート（30%）
病態生理学Ⅱ	期末試験（70%）と授業中に提出するレポート（30%）により評価する。授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験（70%） 授業中に提出するレポート（30%）
薬物治療学Ⅱ	一連の講義終了後に、期末試験を行い、60%以上の正解で合格とする。	期末試験（100%）
薬理学Ⅱ	授業中に実施する小テスト 30%および期末試験 70%。総評価の 60%以上で合格。	授業中に実施する小テスト（30%） 期末試験（70%）
薬理学演習Ⅱ	プレゼンテーション時に行う個人・チーム演習得点（客観試験）40% 演習時の観察記録（教員による観察評価）20% 期末試験 40% 総評価の 60%以上で合格	個人・チーム演習得点（40%） 演習時の観察記録（教員による観察評価）（20%） 期末試験（40%）
がん・化学療法学	中間試験 30 点および期末試験 70 点の計 100 点。評価は期末までに授業担当者が行う。 授業への出席が 2/3 未満の場合、定期試験受験資格を与えない。  単位修得基準 中間試験， 期末試験を合わせた 100 点満点中 60 点	中間試験（30%） 期末試験（70%）

	以上で単位修得とする。	
製剤学Ⅰ	<p>期末試験 100%</p> <p>期末試験（多肢選択・正誤判定・穴埋め・論述試験） 100点満点中 60点以上で単位取得。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。</p>	期末試験（100%）
医療倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 回～第 10 回までの講義後に毎回実施する小テスト：10%</li> <li>・ 第 11 回に行う中間試験：20%</li> <li>・ 第 12 回～第 15 回でのグループディスカッション中の活動内容・態度と発表：30%</li> <li>・ 期末試験：40%</li> </ul> <p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3/4 未満の場合，単位を与えない。</li> </ul> <p>単位修得基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総評価の 60%以上で合格とする。</li> </ul>	<p>小テスト（10%）</p> <p>中間試験（20%）</p> <p>グループディスカッション内の活動内容や態度（30%）</p> <p>期末試験（40%）</p>
薬物動態学Ⅰ	<p>評価は、期末試験（配分 100 点）で行う。期末までに授業担当者が評価を行う。なお、授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。単位修得基準は、期末試験 100 点満点中 60 点以上で</p>	期末試験（100%）

	単位習得とする。	
臨床薬学概論	レポート(100%)による合否判定。 本科目は、臨床実習に臨む医療人、社会人の姿勢を考慮した授業、同僚との連携を必要とするグループディスカッションを行うことから、正当な理由なく欠席した場合は単位を認めない。	レポート(100%)
専門実習(医療系)	レポート(50%)、実験中の観察記録(20%)、発表のプロダクトおよび観察記録(30%) 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。	レポート(50%) 実験中の観察記録(20%) 発表のプロダクトおよび観察記録(30%)
特別実習(入門)	レポート(100%)による合否判定。 本科目は、特別実習に取り組むにあたり、各研究室における研究領域、薬学研究のあり方を学び、特別実習に取り組む研究領域、テーマの決定につながるものであることから、正当な理由なく欠席した場合は単位ならびに研究室配属を認めない。	レポート(100%)
衛生化学II	中間試験と期末試験にて評価。 授業への欠席が、4回以上	中間試験(40%) 期末試験(60%)



	<p>で、定期試験受験資格を与えない。</p> <p>中間試験と期末試験の合計が 60%以上で単位修得とする。</p>	
衛生化学Ⅲ	<p>評価は、期末試験 100 点満点で行う。試験では、TBL でのテーマ別グループ討議でディスカッションした内容も含む。期末までに授業担当者が評価を行う。なお、授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。単位修得基準は、期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	<p>期末試験 (100%)</p> <p>試験では、TBL でのテーマ別グループ討議でディスカッションした内容も含む。</p>
衛生化学演習	<p>評価は、期末試験 100 点満点で行う。試験では、TBL でのテーマ別グループ討議でディスカッションした内容も含む。期末までに授業担当者が評価を行う。なお、授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。単位修得基準は、期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	<p>期末試験 (100%)</p> <p>試験では、TBL でのテーマ別グループ討議でディスカッションした内容も含む。</p>
薬物動態学Ⅱ	<p>評価は、期末試験 (配分 100 点) で行う。期末までに授業担当者が評価を行う。なお、授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。単位修得基準は、期末試験</p>	<p>期末試験 (100%)</p>

	100点満点中60点以上で単位修得とする。	
病態生理学Ⅲ	期末試験(70%)と授業中に提出するレポート(30%)により評価する。授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験(70%) 授業中に提出するレポート(30%)
薬物治療学Ⅲ	一連の講義終了後に、期末試験を行い、60%以上の正解で合格とする。	期末試験(100%)
製剤学Ⅱ	期末試験100% 期末試験(多肢選択・正誤判定・穴埋め・論述試験) 100点満点中60点以上で単位取得。 授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。	期末試験(100%)
薬理学Ⅲ	授業中に実施する小テスト30%および期末試験70%。総評価の60%以上で合格。	授業中に実施する小テスト(30%) 期末試験(70%)
薬理学演習Ⅲ	プレゼンテーション時に行う個人・チーム演習得点(客観試験)40% 演習時の観察記録(教員による観察評価)20% 期末試験40% 総評価の60%以上で合格	個人・チーム演習得点(40%) 演習時の観察記録(教員による観察評価)(20%) 期末試験(40%)
裁判化学	期末試験(60%)、TBLの際の観察記録(10%)とレポート(30%)により評価する。 授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資	期末試験(60%) TBLの際の観察記録(10%) レポート(30%)

	格を与えない。	
社会薬学Ⅲ	<p>期末試験（100点） 授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準 期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	期末試験（100%）
医薬品情報学	中間試験 40 点、期末試験 60 点	<p>中間試験（40%） 期末試験（60%）</p>
医薬品情報学演習	<p>毎回の課題に関するレポート点 70 点 グループ発表 30 点</p>	<p>レポート（70%） グループ発表（30%）</p>
災害薬学	<p>期末試験（50%）、演習中の観察記録・レポート（20%）、訓練のプロダクトおよび観察記録（30%） 本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。</p>	<p>期末試験（50%） 演習中の観察記録・レポート（20%） 訓練のプロダクト（30%）</p>
薬物治療学演習	期末試験の結果に基づき、総合的に 60%以上の評価で合格とする。	期末試験（100%）
医療安全学Ⅰ	<p>授業への参加態度 50%、課題レポート 20%、期末試験 30%により評価する。</p> <p>授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p>	<p>授業への参加態度（50%） レポート（20%） 期末試験（30%） 授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。 レポートは、課題に対す</p>

	<p>課題レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。期末試験は、医療安全について、薬剤師としてどのようにかわるのかについて論述できることが問われる。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満である場合は、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格とする。</p>	<p>る理解度、論理性により評価する。期末試験は、医療安全について、薬剤師としてどのようにかわるのかについて論述できることが問われる。</p>
社会薬学Ⅳ	<p>授業への参加態度 50%、課題レポート 30%、グループ発表 20%により評価する。</p> <p>授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>ミニレポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかわるのかについて論述できることが問われる。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満である場合は、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格とする。</p>	<p>授業への参加態度 (50%) レポート (30%) グループ発表 (20%)</p> <p>授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかわるのかについて論述できることが問われる。</p>
社会薬学Ⅴ	<p>授業への参加態度 50%、課題レポート 30%、グループ発表 20%により評価</p>	<p>授業への参加態度 (50%) レポート (30%) グループ発表 (20%)</p>

	<p>する。</p> <p>授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>ミニレポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満である場合は、単位を与えない。</p> <p>総評価の 60%以上で合格とする。</p>	<p>授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。</p> <p>レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。</p>
臨床感染制御学	<p>期末試験（100点）</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準</p> <p>期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	<p>期末試験（100%）</p>
臨床コミュニケーション	<p>期末試験（100点）</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準</p> <p>期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	<p>期末試験（100%）</p>

臨床薬剤学Ⅰ	<p>期末試験（100点） 授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準 期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	期末試験（100%）
臨床薬剤学Ⅱ	<p>期末試験（100点） 授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。</p> <p>単位修得基準 期末試験 100 点満点中 60 点以上で単位修得とする。</p>	期末試験（100%）
医薬品安全性学	期末試験 100 点	期末試験（100%）
医療統計解析学	期末試験（100%）	期末試験（100%）
医療統計解析学演習	<p>毎回の課題に関する結果 80 点 グループ発表 20 点</p>	<p>課題レポート（80%） グループ発表（20%）</p>
医薬品開発学	<p>小テスト合計 20%および 期末試験80%の計100点で 評価する。評価は期末ま でに授業担当者が行う。 総評価の 60%以上で合格 とする授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験 受験資格を与えない。</p>	<p>小テスト（20%） 期末試験（80%）</p>
事前学習Ⅰ	<p>レポート（100%）による合 否判定。 本科目は臨床実習に臨む 医療人，社会人の姿勢を 考慮した授業であること</p>	レポート（100%）

	から、正当な理由なく欠席した場合は単位を認めない。	
病院・薬局薬学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回～第12回までの講義後に毎回実施する小テスト：30%</li> <li>・第13回～第15回でのグループディスカッション中の活動内容・態度と発表：30%</li> <li>・定期試験：40%</li> </ul> <p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が 3/4 未満の場合、単位を与えない。</li> </ul> <p>単位修得基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総評価の 60%以上で合格とする。</li> </ul>	<p>小テスト (30%)</p> <p>グループディスカッション内での活動内容や態度 (30%)</p> <p>期末試験 (40%)</p>
医療安全学Ⅱ	<p>期末試験 (60%)、TBL の際の観察記録 (10%) とレポート (30%) により評価する。</p> <p>授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。</p>	<p>期末試験 (60%)</p> <p>TBL の際の観察記録 (10%)</p> <p>レポート (30%)</p>
臨床医学	<p>確認テスト合計 30%およびレポート 70%で評価する。評価は期末までに授業担当者が行う。総評価の 60%以上で合格とする。</p> <p>なお、12 回以上の授業への出席と対応するレポート等の提出が単位獲得の必須条件である。</p>	<p>小テスト (30%)</p> <p>レポート (70%)</p>

臨床薬学演習	<p>観察記録 (50%)、発表のプロダクト・レポート (50%)</p> <p>本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。</p>	<p>観察記録 (50%) レポート (50%)</p>
薬学特別演習	<p>期末試験 (50%)、レポート (50%)</p>	<p>期末試験 (50%) レポート (50%)</p>
特別実習Ⅱ	<p>卒業研究発表会における発表内容に関して、全薬学部教員により定量的評価 (25%)、指導教員による総研究時間の確認 (25%)、指導教員と学生が配属されていない講座教員による卒業論文の評価 (50%) で合否を判定する。</p>	<p>卒業研究発表会における発表内容 (50%) ※全薬学部教員により定量的評価 卒業論文の評価 (50%) ※指導教員と学生が配属されていない講座教員による評価</p>



(是正事項) 薬学部 薬学科

3. 授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) シラバスの評価時期・評価方法・評価基準の記載項目が科目ごとに異なっており、整合性を欠くことから、記載項目を統一すること。

(対応)

シラバスに記載している評価時期・評価方法・評価基準について、「評価の時期・方法・基準」という項目を設けて記載していたが、科目ごとに記載内容が異なっていたことから、審査意見を受けて、全科目において、新たに「評価時期」、「評価方法」、「評価基準」の項目を個別に設け、明確化し、記載項目の統一を行った。

(新旧対照表) シラバス

旧	新
(略)	(略)
参考書 ○○○○○○	参考書 ○○○○○○
<u>評価の時期・方法・基準</u> ○○○○○○	<u>評価時期</u> ○○○○○○
学生へのメッセージ ○○○○○○ . . . . . (略)	<u>評価方法</u> ○○○○○○
	<u>評価基準</u> ○○○○○○
	学生へのメッセージ ○○○○○○ . . . . . (略)